

2021.7

青少年 通信

季刊 No.4

青少年の理解と
関心を深める情報誌

発行:横浜市青少年育成センター
横浜市中央区住吉町4-42-1 関内ホール地下1階
TEL:045-664-6251 FAX:045-664-6254
Mail:ikusei@yokohama-youth.jp
https://yokohama-youth.jp/ikusei/

2020年度 青少年育成



写真はこちらも
同じ研修の様子
12020年度
←2019年度
グループによる
対話ができず、
ソーシャルディ
スタンスを取る
研修となりました。



「横浜市中区住吉町4-42-1 関内ホール地下1階」

「コロナ禍の影響でオンライン化などが急速に浸透し、新たな環境が生まれましたが、リアルな体験や人と関わる機会の減少、ネット上の誹謗中傷やいじめ、社会的孤立が生むひきこもりなど、以前からあった青少年が抱える課題や困窮さなども顕在化しています。

社会課題の進行を加速させる一方、これまで、あたりまえだった人との関わりやリアルな体験の必要性に気がついたり、「コロナ禍により浮き彫りになった社会課題を自分事に捉える傾向も生まれたりしています。

そんな社会変化を迎えた2020年度の横浜市青少年育成センターが行ってきた取り組みに、今回はフォーカスしたいと思います。



横浜市中区住吉町4-42-1 関内ホール地下1階

データでみる青少年

高校生が自分たちの意見を表明すること
良いことなの言いにくい?

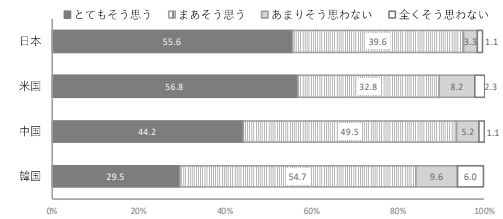


日本・アメリカ・中国・韓国の高校生を対象に行われた「意見の表明」に関するデータによると、日本の高校生は子ども若者が社会や政治に対して「自分たちの意見を表明すること」について95.2%が肯定的に捉えている一方、「意見を表明しやすいと思わない」と回答した割合が5.6.2%となっています。

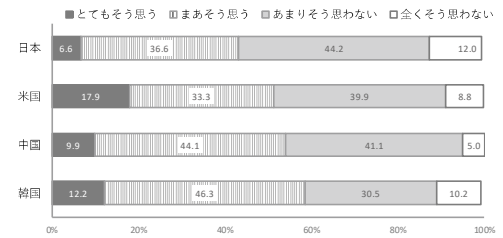
他国と比較してもこのギャップは大きく、意見表明することに対するハードルの高さが見て取れます。表明しづらい理由も調査しており、「(意見表明)しても何も変わらない」「社会からの理解を得られないことが背景にある」との結果が出ています。

現在の日本の10代(10~19歳)の割合は8%程度。社会で若者はマイノリティです。若者にとって意見の表明への諦めのようなものは、無意識に大人が「当たり前」を若者に押し付けてしまっていることが原因ではないでしょうか。

国立青少年教育振興機構
「高校生の社会参加に関する意識調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-(令和3年6月発行)」
(https://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/1517)



子ども・若者が社会や政治に対し、自分たちの意見を表明することについて、あなたは良いことと思いますか



子ども・若者は社会や政治について自分たちの意見を表明しやすいと思いますか



青少年育成センターで会議していると、時々こんなやり取りがある。

A: いじめとか虐待とかの研修をしているけど、突然目の前でその現場とかに遭遇したら戸惑いますよね。

B: 最近あったことなんですけど、道端で座り込んでいるお年寄りがいたんです。近くで子どもを抱っこした女性が声をかけていて、余計なお世話かなと思いましたが、私も声をかけました。どうやら足腰が悪く、こけて頭を打ったようです。「救急車呼び

ますか」といったら「タクシー呼んで」といわれて、タクシーをつかまえました。意識もはっきりしているし大丈夫かなと思いつながりながら、乗車を手伝って見送りましたが、あれでよかったのかなって帰りがちながら考えてましたね。

A: それはわかります。「こうしたらよかったかも」とか「あれしとけばよかった」とか冷静になって考えてしまいますよね。

C: けど、そう思うほうがいいんじゃない。「立派なことした」って自己満足に浸るより、「余計なおせっかいかもしれない」とか「こうすればよかった」とか考えるほうが、おせっかいの押し付けにならないから。

B: それもそうかもしれないですね。

育成センターのご案内



施設の貸出

【開館時間】月～土曜日 9:00～22:00
日曜・祝日 9:00～17:00

【休館日】施設点検日・年末年始(12月29日～1月3日)

活動内容に応じて、会議室の貸出をしています。その他、和室、音楽スタジオなど多目的な活動を支援します。

プロジェクトやwi-fiなどオンライン設備も充実しています。

第1研修室 (27人) ミティングルーム (12人) 音楽スタジオ (8人)

第2研修室 (72人) 和室 (24人) ※ () は定員

プリントルーム...コピーや印刷などご利用いただけます。

ユースライブラリー...青少年に関する書籍を配架しています。

施設の利用方法など詳しくはコチラ→
<https://yokohama-youth.jp/ikusei/>



「青少年」のことなら、 育成センターに

活動相談・情報提供

青少年に関する研修・講座の組み立て方や講師の紹介、地域の青少年活動の事例紹介や青少年関係の統計など活動相談や情報提供を行っています。

お問い合わせ

TEL: 045-664-6251

Mail: ikusei@yokohama-youth.jp

研修・講座等の情報は
Facebook



日々のつぶやきは
Twitter





横浜に、こんな人たちがいて、こんな活動があるという出会いがあります。

6月28日コロナ禍の状況を考慮して、オンラインにて開催しました。社会がオンラインに移行してきた時期だったので、環境が整っていない人が参加できなかったことは残念でしたが、コロナ禍で不安や孤独を感じていた人にとっては、久しぶりに人と繋がれる機会となりました。オンラインでも全体での意見交換やテーマ別の話し合いもスムーズに行えることが分かった一方、リアルに会う機会を欲する意見も多くありました。

6月

2020年度 あらためて つながりを 考える

新型コロナウイルス感染症を契機に社会は急激な変化が起こり、以前からあった価値観が見直され、新しい価値を創造していくことが必要となります。

育成センターが実施する研修講座においては、青少年がおかれている現状や課題を反映させ、寄り添える大人を増やしていくため研修を充実させました。

また、大学生年代や20代30代の若者を中心とした世代と地域の大人との交流を促すとともに、若者の社会参画の意識を高める機会を作ってきました。

これまでの施設運営の在り方を見直し、新しい生活様式によって生まれた変化を積極的に取り入れ、青少年育成にかかわる団体や人々が次の時代を迎えても、滞ることなく活動を続けられるような支援の在り方を探っていきます。

8月

子ども・青少年の理解につながる研修 基礎編

「ウィズコロナ」を見据えた新しい知識やノウハウを学ぶ、青少年支援者のための基礎研修を実施しました。いじめや不登校など「学校」にまつわる話や、「発達障害」の理解、「性教育」の実態、虐待や暴力など「家庭」内の課題、「依存症」の基礎知識、といった5つのテーマを取り上げました。

心理学博士や弁護士、相談センターなどの現場従事者を招いて、それぞれの分野での青少年支援の経緯から、事例を交えた現在の取り組みの紹介まで、参加者の問題意識や意欲を高める内容となりました。



いじめ、不登校、虐待、非行、貧困など、子どもたちを取り巻く様々な現状を学ぶ研修

8月

MFA講習会 (応急手当講習会)

活動中に起こりうる万一の備えとして、救命救急のスキルは大切なものです。研修から2年間有効の国際ライセンスであるメディックファーストエイド(略してMFA)のチャイルドケアプラスを行いました。

講座の中では感染症対策に配慮した方法を盛り込んでいただき、一人ひとりがじっくりと実践教材を使って訓練することができました。コロナ禍でも対応できる、救命救急を学ぶことができました。



日常に役立つ教護方法、感染症に対応した、

子ども・青少年の「主体性」とは何か？

よこはまユースゼミ 11月

10月

性的少数者等についての啓発パネル展

地下2階共有スペースの通路壁面を利用し、パネル展を行いました。2020年度は2回、①LGBTQ(性的少数者等)についての啓発)、②デートDVについてでした。今後も青少年を取り巻く環境や課題についてのパネル展示を行います。



社会的な課題の啓発

2月

子ども・青少年の理解につながる研修 発展編



基礎編から継続して参加していただいた支援者からは、「自身の転機と重なって思い悩んだ時期もありましたが、専門の先生や受講者のみなさんの熱心な様子に勇気づけられました」という感想をいただきました。



基礎から一歩先に、イマの青少年に対する支援の形を学ぶ

2月

1月

都市の中での 自然遊び講座

普段の研修場所である育成センターから離れ、近隣の公園で、大人が自然の面白さに気づき、子どもの主体性を引き出す「自然遊び」を体験しました。真冬の寒さが厳しい時期でしたが、ボカボカ日和となりました。

都市の中にある見落としがちな自然を生かし、自然体験が少ない子や苦手な子でも夢中になれるコツを学びました。大人が自然体験に夢中になる、あつという間の2時間でした。



身近な自然の面白さに気づく

施設を使った、若者とのかわりかた

3月

居場所づくり実践見学会



また、現地訪問した【川崎市ふれあい館】の見学では、多文化や差別、民族といった内容にも触れることができ、「子どもがふれあい館に来られるように、家族を支える必要がある」など、子どもたちへの考えがふれる内容でした。



オンラインを活用し、市外の施設である【世田谷区立希望丘青少年交流センター】との交流見学会を行いました。「受付での無駄話で信頼の貯蓄」「見守るだけでなく一緒にする(with)という姿勢」などのかかわり方は、他の現場にも持ち帰れる内容でした。



11月

子ども・若者の居場所の発見・発信ボランティア

このボランティアは、「オンラインでもできることを」と市内で地域活性化に取り組む人や団体などを取材し、ウェブメディアプラットフォームnoteで発信するというものです。主に18歳から24歳までの大学生・専門生が参加しました。

コロナ禍によって学生は外出が減り、若者と地域団体の関わる機会が減りました。オンラインでも地域の人と出会う・知り合えることは、この活動の特徴でもあります。また、オンラインから始まる若者と地域のかかわりは、新しい形の青少年育成活動のモデルになると感じています。



オンラインでもできる若者の地域ボランティア